

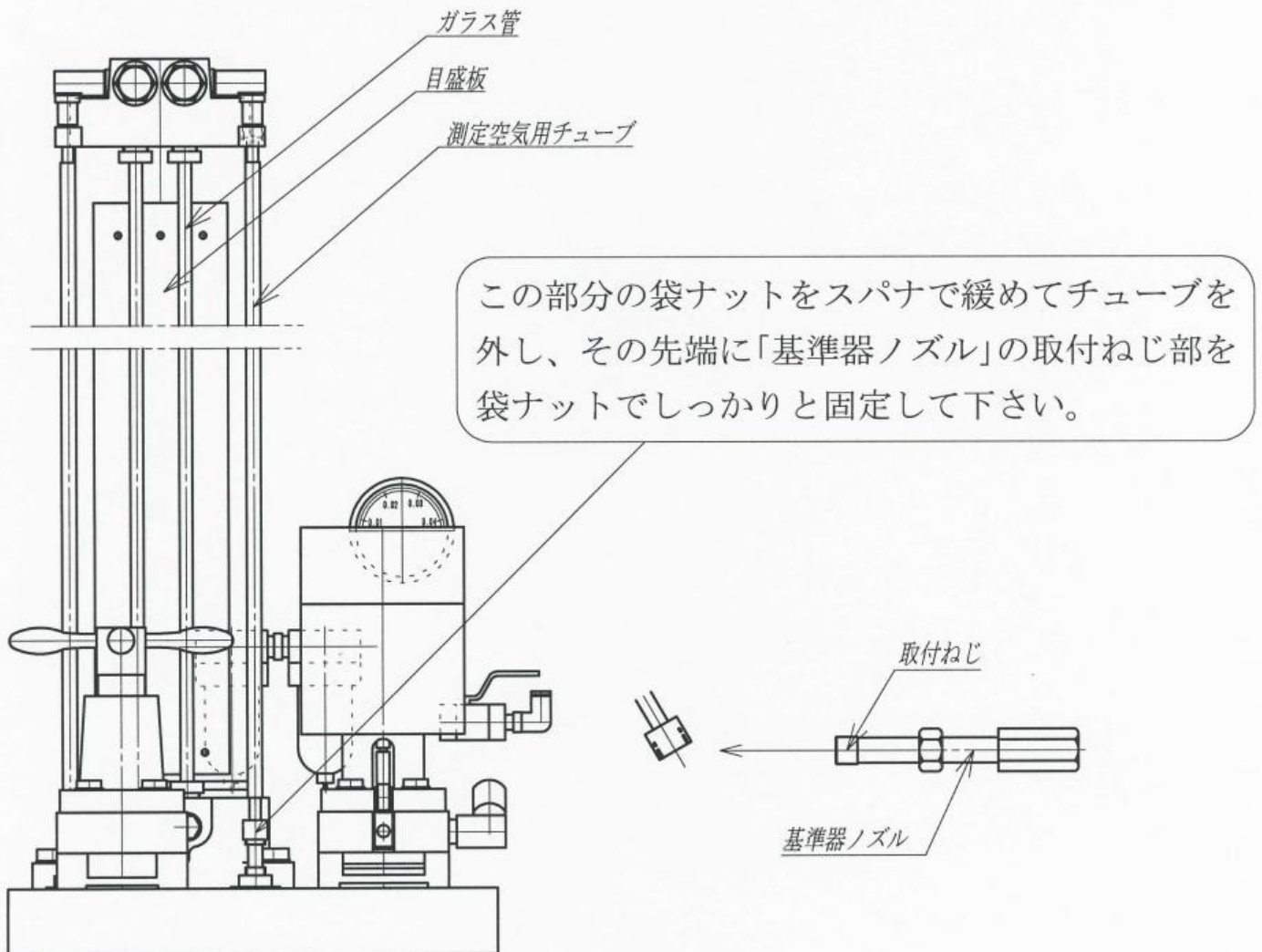
1. 概要

- 1) 「基準器ノズル」は王研式透気度・平滑度試験機に内蔵されているノズルの精度をチェックする為の検査具です。
- 2) 透気度用と平滑度用の専用基準器ノズルを備える事がが必要です。
- 3) 基準器ノズルは水柱型とデジタル型の両方に使用出来ます。
但し、デジタル型には接続チューブが必要です。
- 4) 測定範囲が大きく異なる複数の試験機を検査する場合は、2個以上の基準器ノズルが必要です。

(注) 平滑度測定の場合は基準器ノズルの検査と合わせて紙（基準紙）による検査で確認する事がが必要です。

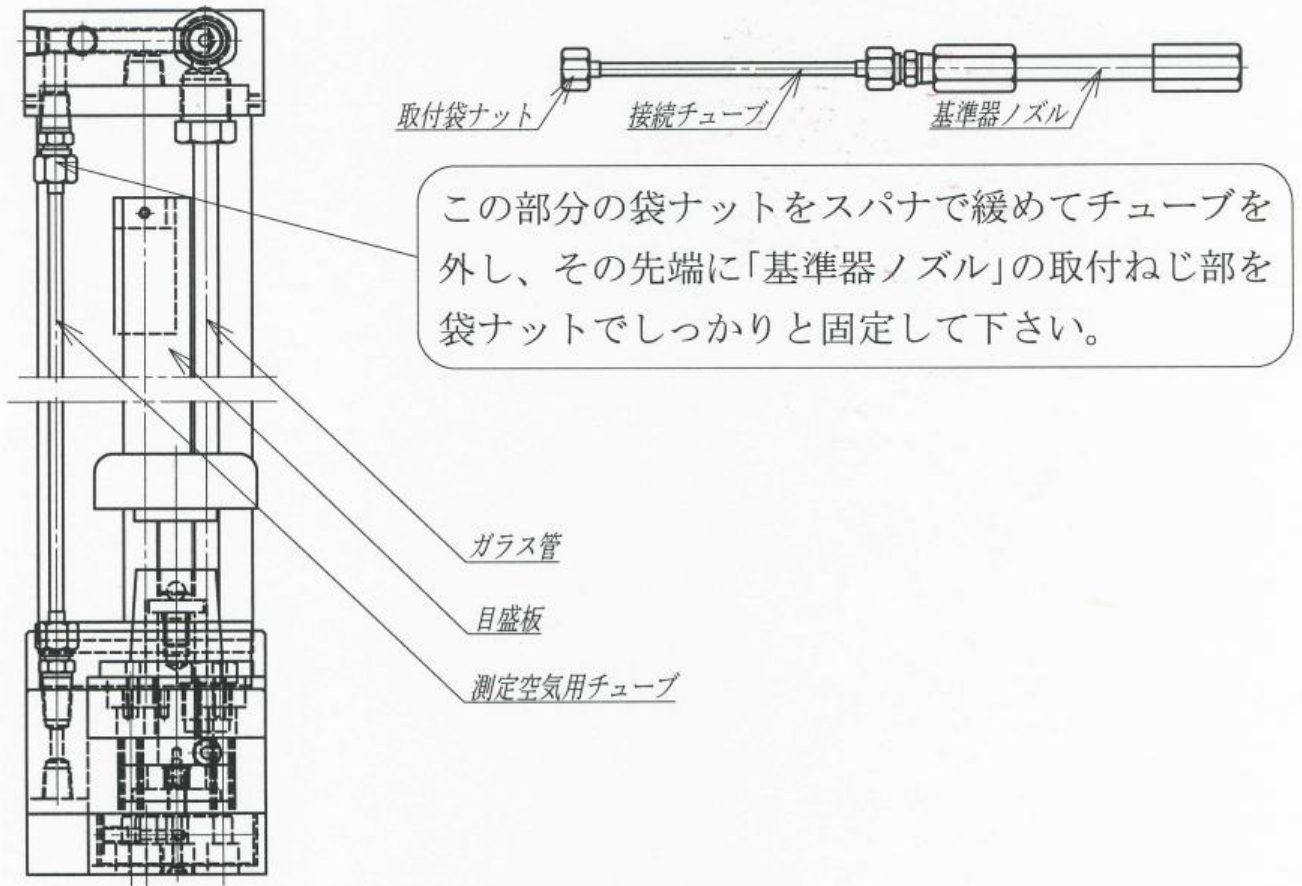
2. 基準器ノズルの使い方

1) 水柱型



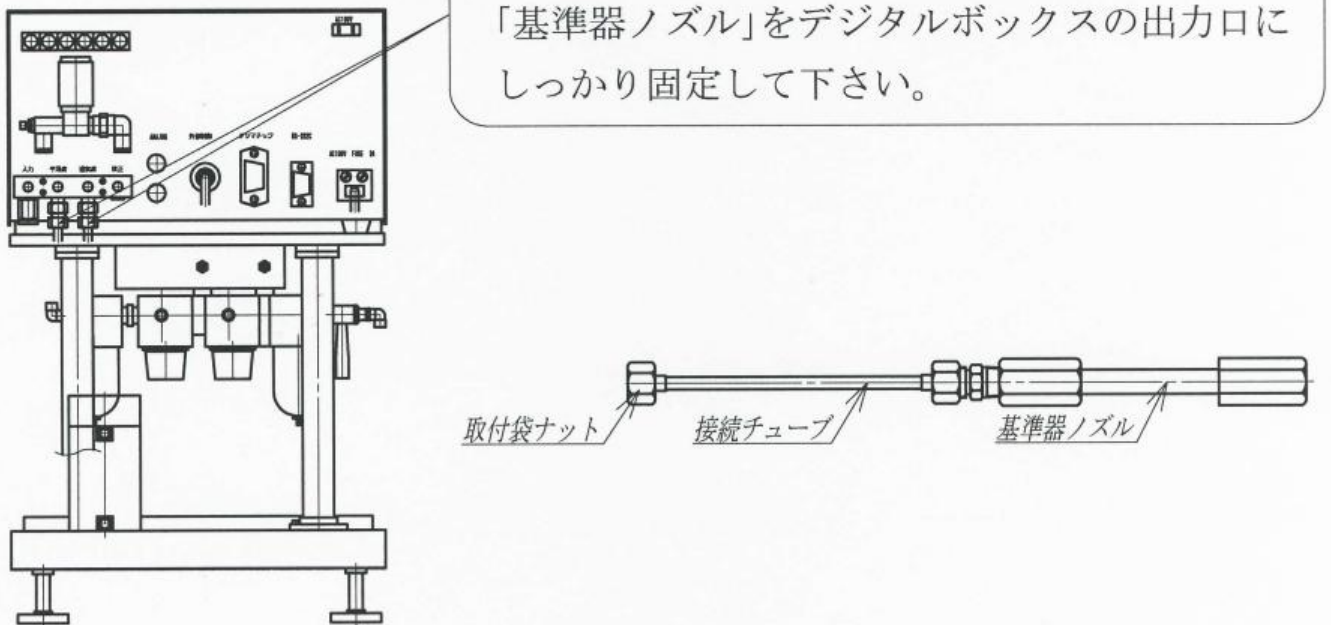
2) 水柱式ポータブル型

水柱式ポータブル型正面図



3) デジタル型

背面図



3. 検査方法及び注意

- 1) 基準器ノズルを取り付けたら、基準器ノズルを測定紙と考え、通常の測定操作を行い、測定値を読み取って下さい。
- 2) 読み取った測定値と基準器ノズルの検査測定値(以後基準器ノズル値と呼ぶ)を比較して「±3%」以内であれば正常です。
- 3) 基準器ノズル値より読み取り測定値が大きいと、試験機で測定した透気度平滑度の測定値は、全範囲で変化した%分だけ大きく測定されます。
- 4) 基準器ノズル値と比較して「±3%」を越えてしまい、透気度・平滑度測定に異常が認められた場合は早期に試験機内のノズルを取り換える必要があります。
- 5) 判定値
 - *基準器ノズルと基準試験機の公差 …… ±2%以内
 - *基準器ノズルと各試験機との公差 …… ±3%以内
- 6) 気温、湿度、気圧等の環境が異なる場合は「±3%」以上となる事がありますので測定は出来るだけ一定の環境のもとで行って下さい。
特に基準器ノズルを握りすぎていると、温度の影響が大きくなりますので基準器ノズルを取付後10分～30分経過してから測定して下さい。
- 7) 基準器ノズルは定期的な検査が必要です。
- 8) 基準器ノズルは温度、湿度の一定した場所に保管して下さい。